

速報 大仙市アーカイブズ開館記念行事 (2017.5.3)

5月3日(2017年)に秋田県大仙市で開催された大仙市アーカイブズ開館記念行事に参加いたしました。当日記念講演に登壇された全史料協の定兼学会長からのご依頼により、参加記を寄稿いたします。文責はすべて筆者が負うものです。



大仙市は2015年度の全史料協秋田大会を誘致するなど、過去10年あまりにわたり、基礎自治体としてアーカイブズ設置に熱心に取り組んでこられました。このたびその努力が実を結び、東北地方で初の市町村レベルの公文書館「大仙市アーカイブズ」の開館を迎えました。憲法記念日にあたる開館当日は、抜けるような青空と穏やかな陽ざしに恵まれました。開館セレモニーは、大仙市強首(こわくび)地区の旧双葉小学校を転用した大仙市アーカイブズの正面玄関前にテントを設置し、午後2時より執り行われました。当日の参加者は約120名でした。式典では主催者を代表しての老松博行市長による式辞に続き、細川良隆館長による経過報告、設計・管理・諸工事を担当された事業者へ感謝状が贈呈され、さらに来賓である御法川信英衆議院議員、加藤丈夫国立公文書館館長、定兼学全史料協会会長、佐藤美津紀秋田県公文書館館長、千葉健大仙市議会議長による祝辞が述べられました。祝電披露とテープカットでセレモニーが終了した後には、3班に分かれて施設見学会も行われました。

旧双葉小学校の校舎は2000年、体育館は2001年竣工と比較的新しい建物です。旧体育館にあたる大書庫は床を補強したうえ、窓には紫外線防止フィルムを張るなどの工夫が凝らされています。一般の書庫、貴重書庫、閲覧室、資料整理作業室、展示室、さらに双葉小学校アーカイブズなどを案内していただきました。行政文書のみならず、地元の写真家が撮影した写真資料や個人蔵の私文書も展示されており、とくに農作業に励む女性のそばに置かれているエズメ(赤ちゃんをいれておくかご)がひっくり返りそうになりあわてて駆け寄るお母さんの写真など、かつての農作業の様子を生き生きととらえた画像が心に残りました。当面は市内各所に分散保管されている公文書、歴史資料を強首のアーカイブズ施設に運び込んで配架する作業などが優先されることと思いますが、いずれはこのような地域資料のインターネット公開などにも取り組んでいただきたいと思います。



見学会の後は全史料協定兼会長による「アーカイブズには『いのち』がしみこんでいる」と題した開館記念講演会が開催されました。老松市長、加藤国立公文書館館長をはじめとする多数の参加者が、定兼会長の若かりし頃の史料調査の写真などのスライドを用いた講演に耳を傾けました。

さて、最後にふだんは企業アーカイブズの振興に取り組む私が、なぜこのたびの大仙市アーカイブズ開館記念行事に東京から足を運んだのか、これについて若干の説明を付して、この速報の結びとさせていただきます。

企業アーカイブズの第一の存在理由は企業活動に役立つことにあります。そして企業活動、とりわけ企業活動の興隆と永続性にとってもっとも大切なものは「イノベーション」です。新しい価値を生み出すことが企業の存続には不可欠です。そのような発想からすると、なぜ東北の過疎地域で、行政が新たにアーカイブズを設置することにしたのか。これは非常に興味深い出来事であり、ぜひ現地でいろいろお話をうかがってみたいと思ったのです。幸い当日は老松市長をはじめ、市議会議員や市総務課、アーカイブズ関係者のみなさんからお話をうかがう機会を得ることができました。以下、箇条書きで現地の方々のお話をかいつまんでご紹介いたします。

- ・2007年に太田町史編纂に関わった市民の方々から、将来の世代のために公文書・歴史資料の保存と活用のためのアーカイブズの設置を求める提言が行われ、この市民の声を市側が前向きに受け止めた。

- ・昭和の大合併の時に行政文書が紛失したり、行方不明で見つけることができないという経験をした。行政実務の担当者としてこのような状況は望ましくないと強く思った。平成の大合併(大曲仙北地域の8市町村が合併して大仙市が誕生したのが2005年3月22日)ではそれを避けたい、という思いがあった。(長く行政の実務に携わってきた市の当局者(老松市長))

- ・秋田県博物館で2013年に開催された大鉄道展準備の過程で、市が保有する公文書の中に鉄道敷設過程に関する記録があるのがわかった。この件は公文書が多様な情報を含む知的資源であること、公文書が社会的、文化的意味を持つことを市職員が肌で感じるよい機会になったと思う。

- ・土地区画に関する異議申し立てなどに対応する市の総務課では、文書・書類といった証

拠とともに対応することによって、問題解決がスムーズに進むという経験があった。そのため、職員研修などでも公文書の適切な管理がよりよい住民サービスにつながるという点を強調した。

- ・市議会でアーカイブズ設置に関する説明が市の総務課からあった時、「未来における土地区画に関する紛争処理に公文書管理は重要だ」という説明を受けた後は、アーカイブズに反対する議員はいなかった。(市議会議員の方より)

- ・自治体の規模が小さければ文書の検索やレファレンスも職員の記憶を頼りにするような、属人的な対応でもやっていけるが、規模が大きくなってくるとシステム化しないとうまくいかない。(総務課の方より)

アーカイブズや公文書館というと、社会一般には懐古趣味や好事家の世界の話と受けとられることも少なくないように思います。しかし、大仙市アーカイブズ開館までの歩みにおいては、「将来世代のため」、「よりよい住民サービスのため」という考え方が、アーカイブズ設置の原動力になったと強く感じました。聞くところによると、近隣の自治体においても、大仙市アーカイブズは「人口限界県（地域）における新たな市民プログラム」として注目されつつあるようです。さらに、このたびの開館にあたっては近隣県の県公文書館での業務経験に加え、大学院でアーカイブズ学を専門に学ばれた方を新規採用しています。この方にお話をうかがってみたところ、国際的な標準も取り入れていきたい、という抱負を語っておられました。

世界の動向を視野に入れた、未来志向の地方自治体における住民サービスのイノベーションとして、大仙市アーカイブズのこれからは注目していきたいと思います。

(個人会員:松崎裕子)

